参考資料3

教員免許更新制小委員会（第2回）における委員からの主なご意見

【新たな学びについて】

・教師の学びを「個別最適化」と言っているが、国から定められた目標に向かって到達していくというイメージではなく、教師一人一人の個性化の過程がとても重要なのではないかと考える。

・学びの成果を組織で活用し、組織自体が生まれ変わるという構想はとても良いが、その生まれ変わった学びの姿が、全国の研修にも生かされていく循環のイメージが必要。

・免許更新のための研修では、受講しないと失効するわけなので、教師が主体的にはならない。教師自身のキャリアアップにつなげることで、主体性を生むことが大切。

・新たな学びの姿について、教員一人一人が自分自身の資質能力を身につけていく、また磨いていくためには、教員自身に学びの地図、キャリア地図のようなものが必要。これからの教師に必要な資質・能力は何なのかを整理し、それを提示していく必要があるが、それこそが教員育成指標である。こういった資質・能力を免許更新で身につけるのではなく、校内研修等で身につけていくことも考えられる。これまでの日本型学校教育も評価されているとの話だが、その背景には校内研修がしっかりとされていたことを忘れてはならない。

・養成・研修が過剰に厳格化されていく可能性がある。社会も育成すべき資質・能力も変化していくので、学校教育に直結することだけでなく、多様な経験を許容していけるような内容であってほしい。そうでないと、教員も元気を出して働くことはできず、また、学生にとっても魅力的な職業には見えなくなる。職としての魅力は、直接的にその活動に連結するような活動のみに依拠しているわけではない。

・新たな学びの姿は大変すばらしい。個人としては、免許や更新制に紐づけなくても良いと考えている。ただ、研修や講習の蓄積によって、上級の免許状に変わるといった仕組みもあって良いと思う。校内研修については熱心に取り組んでいるところが多いが、地域差がある。自分の興味のある分野だけを受講する仕組みだと偏りが出る。

・コンテンツのワンストップ化、プラットフォーム化、ぜひ進めてほしい。工程表を示していただき、都道府県教委がやるべきことを明確にしてほしい。任命権者としては、安心して研修を受けられる職場環境を整えていくことが役目だと思う。また、研修の一環として、例えば10年経ったら大学等で個人の研究ができるなど、そういったインセンティブがあると教員の魅力アップにも繋がり、実践と研究の両方の視野を広げていけると思う。

・プラットフォームについて、オンライン＝オンデマンド型のイメージが強い。「コンテンツを見る（だけの）存在」として思われてしまうのではないか。

・資料2で示された新たな学びの姿に感動した。強いビジョンが示されており、抜本的に改革を進めていく姿勢を感じた。

・新たな学びの姿の具体化に向けて、研修システムの構築に賛同する。構築の際、全ての教師が対象となることが前提であり、全ての教師を受け入れるシステムとして機能しているという教

員免許更新制の枠組みと、大学が関わっているという点については、今後もうまく活用するということが 1 つの観点だと思う。オーダーメード型研修に対する講習内容の提供ということも必要になってくる。

・教師は専門職なので、生涯学び続けていくシステム、特に研修システムは欠かせないことである。また、専門職であるということは、研修の中身が絶えず公に問うていくということが求められる。

【講習受講期間を 10 年にしてはどうか】

・新たな学びの姿について、大変ありがたい。2年間の講習期間ではなく、10年というスパンをフル活用して単位認定し、更新していく仕組みが良いと思う。

・10 年間を受講のタームとして考え、10 年単位の研修の履歴を蓄積していくと良いと思う。そうした中で、研修を自ら選んでいくことが徐々に可能になっていくのではないか。

【更新講習は、「最新の知識・技能を修得する」ことに集約しすぎている】

・更新制（更新講習）について、「最新の知識・技能を修得する」ことに集約しすぎている。教師の資質・能力を伸ばしていくという視点も大切である。「10年前はこのようなことを考えていたのだ」と振り返られるような学習履歴管理の仕組みづくりが大切だと思う。